

研究種目：若手研究 (B)
 研究期間：2007～2010
 課題番号：19720219
 研究課題名 (和文) 村落空間の民俗分類体系における世帯差・個人差と経済階層
 研究課題名 (英文) Household and individual variations in folk classification systems of Japanese village spaces
 研究代表者
 今里 悟之 (IMAZATO Satoshi)
 大阪教育大学・教育学部・准教授
 研究者番号：90324730

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：人文地理学・人文地理学

キーワード：村落空間, 民俗分類, 小地名, 人文主義地理学, 社会経済階層

1. 研究計画の概要

日本の農山漁村の集落空間に関する民俗分類体系が、住民の社会経済階層ごとにいかに異なるか、その世帯差や個人差の実態を解明する。並行して、空間分類に関わる文化地理学や人文主義地理学の学史的再検討を行い、事例研究の理論的な位置づけを図る。

2. 研究の進捗状況

民俗分類体系の個人差の問題である性差については、丹後漁村の事例研究を行った。世帯差についても、耕地の分類体系の一つである筆名を対象に、諏訪農山村と丹後漁村との比較、および滋賀県野洲市の三集落間の比較を行った。理論研究としては、人文主義地理学の代表的論者であるトゥアン、レルフ、レイの所論に絞って再検討を行った。

3. 現在までの達成度

②事例研究・理論研究ともに、三年経過の時点で、おおむね順調に進展している。代表的な研究成果に限っても、査読誌に論文4本が発表され、研究の質の面からも、十分な達成度であると評価できる。ただし、文化地理学の学史的再検討には、不十分な点が残る。

4. 今後の研究の推進方策

残り1年間で、さらに事例研究を1つ、可能であれば、人文主義地理学の学史的再検討を、論者を加えていく形で進行させる。

5. 代表的な研究成果

[雑誌論文] (計4件)

- ① Imazato,S. Rethinking the humanistic approach in geography: misunderstood essences and Japanese challenges. *Japanese Journal of Human Geography*, 59,508-532,2007,査読有
- ② Imazato,S. Gender differences in the folk classification of subsistence spaces and religious places in a Japanese fishing village. *Japanese Review of Cultural Anthropology*,8,77-100,2007,査読有
- ③ 今里悟之, 民俗分類としての田畑の筆名—命名の基準と空間単位, 国立歴史民俗博物館研究報告,号数・頁数未定 (受理済),2010,査読有
- ④ 今里悟之, 圃場整備を通じた筆名の命名原理変化—滋賀県野洲市の三集落の事例, 人文地理,号数・頁数未定 (受理済),2010,査読有

[学会発表] (計2件)

- ① 今里悟之, 村落耕地における筆名の民俗分類—命名の基準と空間単位,人文地理学会第114回歴史地理研究部会,2009
- ② 今里悟之, 一番小さい地名—滋賀県野洲市の田畑の事例から,兵庫地理学協会 2009年度特別例会,2009

[図書] (計1件)

- ① 今里悟之, 人文主義地理学における多様性の再検討—トゥアン, レルフ, レイの所論から, 金沢大学文学部地理学教室編『自然・社会・ひと—地理学を学ぶ』(古今書院),299-318,2009,査読無